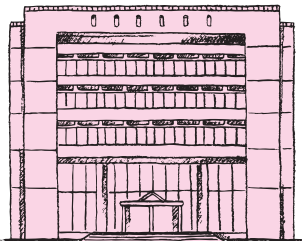


西南学院大学



図書館報

No.

157

2004.12



「猫の本棚」
(2000年本学卒業・鶴見百合子さんの作品)

目次

本学図書館が目指すもの（雑感）

図書館長 伊藤 龍峰 2

卒業論文作成方法

経済学部助教授 是永 隆文 3

レポ一ト・論文作成法

「知恵の宝庫」を活用する

文学部社会福祉学科 光安 理恵 4

「法律資料を集めよう」

大学院法学研究科科目等履修生 山崎 淳司 4

「私の図書館活用方法」

文学部児童教育学科 福島瑠理子 5

使ってみよう！ データベース・電子ジャーナル

シリーズ(1) 6

2003年度図書館統計（抜粋）

お知らせ・編集後記

7
8



本学図書館が目指すもの（雑感）

図書館長 伊藤 龍峰

図書館報の編集者から、標記のテーマでの原稿依頼を受けました。図書館長になってまだ1年と数ヶ月しか経っていない私にとっては、テーマが大きいので、少々荷が重い感じがしています。ただ、このテーマで原稿を書かなければならない関係上、短い経験であるとはいえ、本学の図書館のあり方、あるいはその方向性について、これまで感じたところを数点ピックアップして、雑感風に記すことをご勘弁を願おうと思っています。

（特） 休日開館について

周知のように、本学図書館の開館時間は、通常時期では午前9時から午後10時までですが、これは、全国の大学図書館の平均開館時間を若干ではありますが上回っているようです。ただ、休日開館は実施していないため、この点は、今後前向きに検討しなければならない課題ではないかと考えています。ちなみに、文科省が行った「大学図書館実態調査報告書」によれば、2002年度で684大学中の38.5%にあたる263大学が休日開館を実施しています。この調査結果は、1993年度調査での実施大学（534大学中30大学、5.6%）と比較して、実に大学数で8.8倍、実施率で32.9ポイントの増加となっています。ただ、休日開館を行っている大学を実施率から見ると国立大学に偏っており、97大学中69大学の71.1%が実施していますが、私立大学での休日開館の実施率はまだまだ低い状況ではあります。将来的には、私立大学でも休日開館を実施するところが増える傾向にあるのではないかと思います。

本学の場合は、この4月から法科大学院に設置している図書館分室に限って、休日開館を実施しています。日曜日は午後1時から午後9時まで、祝祭日は午前9時から午後7時までです。これは法科大学院という学習環境の特殊性等を考慮した結果の措置であるとはいえるものの、やはり、図書館本館も、利用者の声を聞きながら休日開館へ向けての具体的な方策を検討する時期に来ているのではないかと考えます。

（監） メディア・センター化構想について

大学図書館の基本的使命は、大学における学習・教育・研究を支援するために、図書資料を中心とする各種の情報を迅速かつ的確に提供することにあります。しかしながら、昨今の学術情報ネットワークの高度化、インターネットの普及および学内LANの整備などは、大学図書館に対しても質的変容を求めています。たとえば、学術文献情報は、大量かつ多様化しているだけではなく、このような情報それ自体が書籍や冊子というペーパー媒体によるものから、ニューメディアに対応して電子ジャーナル化したものへと変化しているからです。

本学の場合、図書館がこのような環境変化に対応するとしても、もはや図書館の枠内だけでは処理できない領域の問題が多く出現するであろうことは容易に予想できます。そのためには、学内各部署が横断的に連携しながら業務を進めていく必要があります。とりわけ、図書館は、情報処理センターや語学ラボラトリーと緊密に協力しなければニューメディア対応型のサービス提供はできないのではないかと考えています。もちろん、その場合の協力は、単なる業務連携としての協力体制ではなく、それらの部署をより積極的に整理統合し、メディア・センター化を行ったうえでの取り組みが理想であることは言うまでもありません。ただ、そうであるとしても、メディア・センターという物理的な機関の設置の問題を始めとして、解決しなければならない多くの問題があります。そのため、メディア・センター化構想の実現化への見通しは、決して楽観視できない状況にあります。

しかしながら、全学的な学習・教育・研究の向上を目指すためには、どうしてもメディア・センターに類するような機関の設置が必要ではないかと考えています。少し大袈裟な表現をすれば、このテーマには、これからも本学が高等教育機関として存続していくための姿勢が問われていると見ることができるのではないのでしょうか。メディア・センターの実現化に向けた、学生や教職員の間での議論の高まりが大いに期待されるところです。



経済学部・商学部学生のための 図書館活用術：卒業論文編

経済学部助教授 是 永 隆 文

今日の大学図書館は、図書・雑誌・新聞等の紙媒体の情報だけでなく、オンライン・データベースや CD-ROM サーバーによる電子情報の提供や、学外の図書館・研究所との相互提携に基づくサービスの提供など、学術情報の一大拠点となっており、その重要性はますます高まっています。従って、より質の高い卒業論文を作成するためには、図書館を効果的に活用することが不可欠です。今回は経済学部・商学部の学生向けに(1)テーマの選択、(2)先行研究のサーベイ、(3)経済統計・財務情報の収集方法を解説します。

まず、テーマの選択です。私は新聞よりも雑誌、特に月刊総合雑誌と経済・ビジネス系雑誌を足がかりにするよう勧めています。雑誌は速報性に劣るものの、あるテーマに関する一連の事実関係や重要な論点を整理した上で提供してくれます。また、月刊総合雑誌の執筆者の多くは専門家であり、経歴や著作も示されており、信頼がおけます。例えば、(日)『世界』(岩波書店)、(月)『論座』(朝日新聞社)、(火)『文芸春秋』(文芸春秋社)、(水)『中央公論』(中央公論新社)、(木)『月刊現代』(講談社)などがあります。また、経済・ビジネス系雑誌では(日)『週刊東洋経済』(東洋経済新報社)、(月)『エコノミスト』(毎日新聞社)、(火)『週刊ダイヤモンド』(ダイヤモンド社)などがあります。これらは図書館1階・2階の新聞・雑誌コーナーにあります。

新聞記事・雑誌記事の検索は、オンラインや CD-ROM サーバーを活用します。本学では(日)「日経テレコン」で日経4紙(日本経済新聞、日経産業新聞、日経金融新聞、日経流通新聞)、(月)「聞蔵」で朝日新聞(全国版・地方版)、AERA および週刊朝日の記事、(火)「ヨミダス文書館」で読売新聞と The Daily Yomiuri(英字版)の記事が検索できます。また、雑誌記事を包括的に検索したい時は、学内 CD-ROM サーバーの(水)国会図書館「雑誌記事索引」(同図書館 HP でも利用可能)を利用してください。

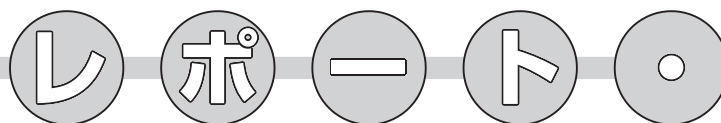
テーマが決まったら、先行研究(専門書、学術論文)のサーベイです。図書検索は Web 上の(日)国立情報学研究所(NII)の図書情報ナビゲーター「Webcat Plus」、(月)福岡市総合図書館の蔵書検索、(火)九州大学図書館の蔵書検索、(水)国立国会図書館の書誌検索を勧めています。(日)は全国の大学図書館の蔵書が一度に検

索できます。(月)は福岡県内の公共図書館の蔵書が横断検索できます。なお、福岡市総合図書館は、本学学生であれば一人10冊以内、2週間以内で貸出可能です。(水)は国内で出版された図書・雑誌は原則として全て所蔵しています。なお、外部の図書館の蔵書を利用したい時は、1階リファレンス・コーナーで相互貸借、学外文献複写、他大学利用サービスを申請してください。

日本語の学術論文(和雑誌)の検索は NII の情報検索サービス「Nacsis-IR」があります。経済ならば「経済学文献索引データベース」を指定します。また、外国語の学術論文(洋雑誌)の検索は「Econlit」などがあります。これらは本学図書館 HP トップの「リンク」から「データベース」でアクセスします。学術雑誌が本学にない場合は、相互複写サービスを利用してください。

最後に、経済統計や財務情報の収集です。そもそものような統計が存在するのか調べたい時は、木下滋他編『統計ガイドブック：社会・経済』(大月書店)がお勧めです。また、政府統計に関しては、Web 上の「統計データ・ポータルサイト」(総務省統計局)が総合ガイドを提供しています。政府統計は各省庁や日銀の HP で一部公開されていますが、図書館所蔵の紙媒体の統計書にも大抵 CD-ROM が付属しています。他方、企業の財務情報は、Web 上の(日)各企業の HP、(月)「eol 企業情報提供サイト」、(火)「EDINET」を利用します。(月)と(火)は図書館の HP の「リンク」から「データベース」で利用できます。また、幾つかの業種では業界団体の HP でも統計を提供しています(銀行業ならば全国銀行協会 HP、生命保険業ならば生命保険協会 HP)。財務情報はオンラインが主流ですが、紙媒体でも、例えば、図書館の閉架書庫に1960年代以降の上場企業の有価証券報告書が所蔵されています。また、『企業経営の分析(旧・本邦事業成績分析)』(三菱経済研究所)には各業種の主要企業の財務情報が掲載されています。

以上、足早に解説してまいりました。最後に、情報リテラシー(情報収集能力、処理能力)は、むしろ卒業後に自らの見識を深めるために一層必要となります。卒業論文をきっかけに在学中に環境整備をしておくことを強くおすすめします。



皆さんはレポートや論文を書く機会が多いと思います。その際、参考資料となる情報はどのようにして入手していますか？

三名の方たちのやり方を参考にしてみるのもひとつの手助けとなりますよ！



「知恵の宝庫」を活用する

文学部社会福祉学科
光 安 理 恵

既に卒業論文を完成させた方もいると思うが、私が在籍する文学部社会福祉学科では、4年からゼミが始まるので、卒論も4年から取り組むことになる。就職活動、卒論に加えて、社会福祉士や精神保健福祉士の受験資格取得を目指す人は、夏期休暇前後に4週間の実習があり、他の学部と比べると執筆にあてる時間的余裕がない状況となる。私もその一人で、実習前にいかに効率よく必要な資料を集めるかという課題が、頭を悩ませた。その時に頼み所となったのが大学の図書館であった。図書館に通い、卒論に関係のありそうな文献、例えば、私の場合「精神障害のある人の自立」が卒論のテーマなので題名に「自立」、「精神障害」の入っている本を手当たり次第集めて、読む事から始めた。しかしそれでは十分ではなかった。卒論は通常のレポートとは異なり、自分の意見を確かなものにする為の確固たる論証が必要となるからである。私の場合、幸運なことにゼミの時間に図書館所蔵資料の検索方法を教えていただいた。閉架の書籍を利用するようになって情報量は格段に増えた。

ここで、私がどのように必要な資料（主に先行論文）を入手しているかを簡単にご紹介したい。資料がうまく集まらずにお困りの方、これから卒論を執筆する後輩の皆さんの参考に少しでもなれば幸いである。

まず、図書館2階にある学術情報検索室で、(図書館ホームページにアクセスして、リンク→データベースでもよい) データベースを利用して集めたい資料のキーワードを入力、検索する。検索の結果出た資料の一覧から必要と思われるものを選び、詳細を印刷する。

次に、OPAC の目録検索で、先ほど調べた資料の出典名を入力、検索する。西南の図書館にあるもので、閉架の分は詳細表示の画面を印刷し、必要事項(号数・発行年等、学籍番号・氏名)を記入しカウンターへ。雑誌の貸出は不可なので、必要な部分はコピーをとる。欲しい資料が大学にない場合は、NACSIS-WEBCAT

で所有している図書館を調べ、入手する。(ここは不案内なので、図書館の方にお尋ねして欲しい) 私の場合は、福岡市総合図書館に足を運んでいる。こちらも図書が充実しているので是非利用されることをおすすめする。必要な資料はこれでほぼ揃った。

このようにして集めた資料を利用して、現在、卒論を執筆している。やはり、夏休み前におおその資料を集め、夏休みに資料を十分に読み込む事が出来たことが大きかったように思う。自分の主張を深める論証となる資料だけを集めるのは、時間を要するので早めに取り掛かるに越したことはない。しかし、焦る必要は決してない。自分なりに計画を立ててやっていただきたいと思う。

「定期試験やレポートの時だけ」、「パソコンを使うため」だけでもよいが、せっかく蔵書数もトップクラスの量と品揃えを誇る大学図書館を大いに利用しない手はない。日頃から足繁く通い、多くの図書に馴染んで、「知恵の宝庫」とも言うべき図書館を限りなく100%に近く、活用していただきたいと思う。



「法律資料を集めよう」

大学院法学研究科科目等履修生
山 崎 淳 司

法律に関する資料を集める方法について、判例、条文、論文に分けて述べたいと思います。

1. 判例を素材として資料を集める

判例に接する方法として、図書館ホームページリンクのデータベース LEX があります。そこで判例を判決日・裁判所を手がかりに検索し、判決文の他に「書誌」というアイコンを開いてください。その判例を掲載している雑誌が表示されます。

この表示された雑誌の中に代表的判例公刊雑誌である「判例時報」「判例タイムズ」があります。これら雑誌の判例解説文から、参考として挙げてある過去の判例(判例時報・判例タイムズ・最高裁判所判例集の掲載号、頁をたよりに)を集めます。判例時報・判例タイムズのバックナンバーは図書館6階に、最高裁判所判例集(民事と刑事に分けて製本されています)は図書館5階法令判例室に所蔵してあります。この集めた判例(判例時報・判例タイムズ)の解説から、更に参考として挙げてある判例を集めていきます。その作

論文作成法

業を2回から3回繰り返すと、判例や論文が集まってきます。それらの判例や文献を読み込んでいくうちに、調べたい判例に関する問題と沿革が掴めてくるでしょう。

また、過去の重要な最高裁判所判例は「最高裁判所判例解説」も年次ごとに刊行されているので、最高裁判所の考え方を知るには大変参考になります。

2. 条文から判例資料を集める

条文から判例を集めるのに便利なのは判例六法を活用することです。さらに図書館には「判例体系」という大型の判例六法が図書館5階法令判例室にあります。判例体系は1期版と2期版があり、現在も加除されている2期版から調べていきます。1期版に掲載されている判例は、2期版で省略されているので、どうしても1期版まで調べることになります。

条文から論文を集めるには、注釈書を利用します。たとえば商法の会社編に関しては「注釈会社法」があります。注釈会社法は初版・新版・補訂版があり、会社法の問題点を詳しく解説しています。民法、民事訴訟法、刑法もそれぞれ詳しい注釈書が図書館3階にあります。

3. 論文資料を集める

議論から資料を集めるには、「法律時報」から毎年12月号として刊行される「学界回顧」を活用することをお勧めします。この「学界回顧」は法律分野ごとにこの1年間の論文を紹介してあります。現在、どういことが議論されているかがよくわかります。

更に詳細に最新の議論から資料を集めるには「法律文献判例情報」を活用します。この本は毎月冊子が刊行され、年次ごとにファイルに綴じています。この法律文献判例情報はCD-ROMも図書館に所蔵されているので、キーワードにより簡単に参考となる文献、判例を検索することができます。



『私の図書館活用方法』

文学部児童教育学科
福島 瑠理子

私は、3、4回生の頃、教員採用試験に向けての勉強と卒業論文の資料検索をするために図書館に通っていました。

教員採用試験の勉強をしていた約半年間は、開館から閉館まで図書館にいました。同じ教員を目指す仲間も図書館で勉強しており、お互いに励ましあいながら頑張ることが出来ました。

さて、次に私が、卒業論文を書くためにどのような方法で図書館を活用したかを書きます。私が所属しているゼミでは、図書館の古庄さんからパソコンを使って研究論文を検索する方法を教えていただく機会がありました。卒業論文を書くにあたって、一番初めにすることは、本を読んだり、図書館の朝日新聞記事データベースやヨミダス文書館を活用しながら、自分自身の興味があるテーマを見つけることです。大きなテーマの段階では、そのテーマに関して、これまでに研究がなされている場合が多いため、先行研究ではなされていない自分だけのオリジナルのテーマを見つけなければなりません。大きなテーマを小さく絞るには、地道に図書館で検索するよりほかにありません。研究論文を読みながらテーマを絞っていきます。研究論文は、図書館2階の雑誌コーナーにある学術系の雑誌や、大学の研究紀要に掲載されています。卒業論文を書くときに、書き方や語尾の使い方など、参考にする論文を最低1つは見つけておくとういと思います。具体的には、図書館のサイトの中にあるNACSIS-IRなどのデータベースを使ったり、サーチエンジンのGoogleを使ったりし、研究論文を探します。読みたい研究論文が西南の図書館にある場合は、1階で閉架図書を申し込み、閲覧、コピーをとります。西南の図書館にない場合は、同じく図書館のサイトから、学外文献複写取り寄せを行います。多少費用はかかりますが、一週間程度で入手できます。本や論文を読んでいて気になる文章が出てきた場合には、本や論文の最終ページに掲載されている引用・参考文献一覧を手がかりにして、「孫引き」と呼ばれる作業を行い、自分が興味のある本や論文を次々に見つけていきます。

私は、この先行研究が不十分だったため、研究のテーマがオリジナルなものにはなりませんでした。これから卒業論文を書こうとしているみなさんには、まだ時間があります。時間が多くとれる3回生のうち先行研究を行っておけば、4回生になった時、手元にある収集した資料を使って書いていくことが出来ます。

卒業論文を書き終えた今、1つの研究をやり通すことはとても大変だということを実感しています。一生のうちで卒業論文ほど打ち込んで研究する機会は滅多にないと思いますが、学部生のうちに経験することができてよかったと思います。みなさんも、ご自身のテーマを見つけられ、有意義な研究をなさってください。図書館は、みなさんの研究活動を全面的にサポートしてくれる場所だと思います。頑張ってください。

使ってみよう！ データベース・電子ジャーナル シリーズ(1)

みなさんはデータベースや電子ジャーナルを使ったことがありますか？

データベースとは、特定の分野（雑誌記事、新聞、特許情報等）の情報をコンピュータで検索できるようにしたものこと、また、電子ジャーナルとは、インターネット上で読める学術系の雑誌のことです。

レポートを書くときなど、何冊もの文献を読んだのに、なかなか自分の知りたい情報にたどり着くことができなかった、という経験はありませんか？データベースや電子ジャーナルを使いこなすことができれば、パソコンの前に座ったまま、短時間で多くの情報を得ることができ、大変便利です。図書館のWebサイトからは、様々な企業が提供しているデータベース・電子ジャーナルにリンクをはっています。ここではレポート、卒論、就職活動などで役立つ、新聞記事を検索できるデータベースを使ってみましょう。

「セカチュー」^(注)で、新聞記事を検索してみよう！

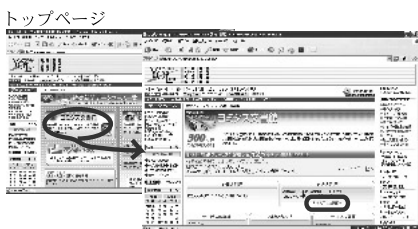
まずは、図書館のWebサイトから、データベースにアクセスします。

- ① 図書館のトップページの【リンク】をクリック ② 【データベース】をクリック ③ 今回はこの3つを使います



④-1

ヨミダス
文書館



読売新聞（1986年9月より）とThe Daily Yomiuri（1989年9月より）の記事検索、「よみうり人物データベース」が利用できます。

検索画面へのアクセス方法

トップページの【ヨミダス文書館】→【法人用検索画面へ】→【読売新聞記事】→検索語に【セカチュー】と入力→【検索】

④-2

日経
テレコン



日経4紙の記事、企業情報、経済統計などについて調べることができます。

検索画面へのアクセス方法

トップページの【記事検索】→キーワードに「セカチュー」と入力→【検索】

注）検索結果の件数が表示され、「一覧表示」をクリックすると、「見出し＝5円、本文＝50円」などの表示が出ますが、この料金は図書館が支払いますので、利用者個人へ請求されることはありません。

④-3

聞蔵
(きくぞう)



朝日新聞が提供しているデータベースで、地方版の記事だけでなくAERAや週刊朝日の記事も検索できます。

検索画面へのアクセス方法

【login to DNA】をクリック→トップページの【シンプル検索】→【検索したいキーワード】に「セカチュー」と入力→【検索開始】

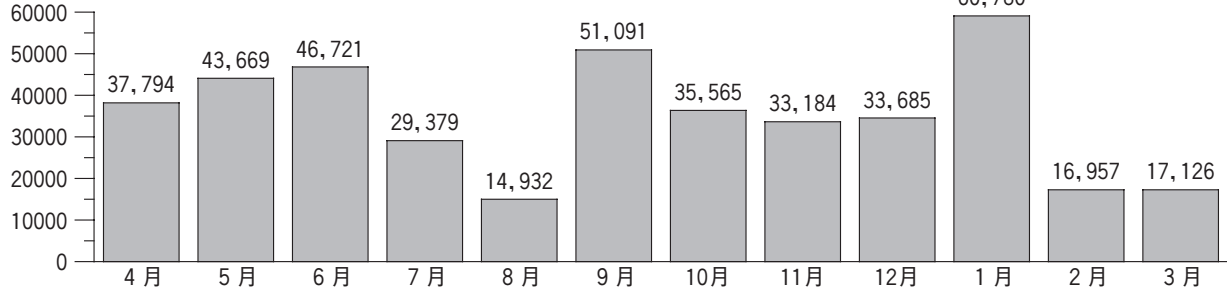
どんな検索結果が出ましたか？映画のセカチューについてだけでなく、ロケ地、ベストセラー、若者の恋愛感、骨髄バンクに関する記事まで、広範囲にわたる記事を読むことができたのではないのでしょうか。このようにデータベースを使えば、新聞を一枚ずつめくって探し出すより、随分楽に多くの情報を集めることができます。各データベース・電子ジャーナルには、それぞれに特色があり、違いがあります。この特色や違いを把握し、調べたい内容によって使い分けことができると、より効率の良い情報収集ができます。ぜひ他のものにもアクセスして、どんなデータベース・電子ジャーナルがあるのかチェックしてみてください。

(図書館情報課：谷元ゆきえ)

(注) ベストセラー『世界の中心で、愛をさけぶ』片山恭一著 小学館2001の略

◆◆◆ 2003年度入館者および貸出統計 ◆◆◆

入館者統計 (月別/単位:人)



入館者統計 (曜日別/単位:人)

月	火	水	木	金	土	合計
68,577	84,672	83,091	76,427	70,654	37,462	420,883

入館者統計特定日別比較表 (単位:1日・人)

4月新学期（4/12）	2,309	
夏季休暇中（7/16）	894	
夏季休暇中（土曜日 8/2）	382	
前期試験期間中（9/11）	3,952	
後期授業期間中（11/11）	1,490	
後期試験期間中（1/23）	3,645	
春季休暇中（3/12）	583	

貸出統計 (月別/単位:冊)

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
5,124	7,106	7,689	5,717	3,852	8,963	8,425	8,394	9,883	10,249	2,952	2,018	80,372

貸出統計 (十進分類別/単位:冊)

000	100	200	300	400	500	600	700	800	900	その他	冊数計	(人数計)
2,898	6,596	5,024	29,734	3,093	2,080	2,281	3,769	4,071	13,653	7,173	80,372	42,062

高率貸出統計(ベスト5)

順位	回数	書 誌・著 者
1	51	賀川豊彦と太平洋戦争：戦争・平和・罪責告白／河島幸夫著
1	51	賀川豊彦の生涯と思想：キリスト者・社会運動家・平和活動家／河島幸夫著
3	40	貸借対照表能力論／土方久著
4	39	国連法／藤田久一著
5	38	債権総論・担保物権／内田貴著

※最近の動向については、目録検索の「貸出の多い本一覧」を参照してください

＜参考(日)＞開館日統計(月別/単位:日)

()内数は土曜日

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
25(4)	24(4)	25(4)	24(4)	21(5)	23(4)	26(4)	22(4)	21(3)	22(4)	16(1)	26(3)	275(44)

＜参考(月)＞受入冊数統計 (単位:冊)

図 書			製本雑誌			合 計		
和書	洋書	合計	和書	洋書	合計	和書	洋書	合計
15,244	6,050	21,294	1,323	1,632	2,955	16,567	7,682	24,249

◎12月～3月休館日

お 知 ら せ

12月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

1月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 30	24 31	25	26	27	28	29

2月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

12月25日(土) キリスト降誕祭

12月27日(月)～1月5日(水)

年末年始休暇

2月7日(月)～12日(土)

大学入学試験



◎卒業論文用図書の貸出および卒業年次生の貸出について

(甲)卒業年次生は、卒業論文作成に必要な図書を通常の貸出とは別に長期貸出（5冊・30日間／更新1回可）ができます。貸出カウンターで「卒論用」と申し出てください。

(乙)卒業年次生は、卒業年度の3月1日以降は図書を借りることはできません。また、貸出中の図書は、2月末日までに必ず返却してください。

◎卒業生の図書館特別利用について

卒業生は、下記の書類を揃えて1階のカウンターで手続をすると図書館を利用することができます。

卒業証明書 1通（100円）

*教務課で発行

写真（3×2.4） 1枚

*3ヶ月以内撮影の証明書用写真

手続料200円

*利用期間は最長6ヶ月／更新可

◎春季休暇期間の長期貸出について

受付開始 1月21日(金)

返却期限 4月1日(金)

(卒業年次生は2月末日)

貸出冊数 5冊以内

◎福岡市総合図書館との相互貸借について

すでにホームページでお知らせしていますが、福岡市総合図書館との相互貸借が5月1日から始まり

ました。利用を希望される方はカウンターでご相談ください。

◎図書館委員の交替

(任期 2004.7.1～2005.6.30)

委 員	新 任 者	前 任 者
(神 学)	松見 俊	片山 寛
(英 文)	藤野 功一	藤野 功一
(フランス語)	西村 牧夫	武末 祐子
(教育福祉)	藤野 力	賀戸 一郎
(国際文化)	岩尾龍太郎	岩尾龍太郎
(商 学)	平木 真朗	平木 真朗
(経済学)	山村 英司	小松 秀和
(法 学)	神宮 典夫	神宮 典夫
(法科大学院)	沢野 直紀	

編 集 後 記

マルチメディア時代、デジタル化時代の到来によって日進月歩の図書館界。今号は、本学図書館が目指すもの、卒論作成、学習のための学術情報の活用方法、本学で利用可能な電子ジャーナル等について紹介しています。

今後、利用者サービスの多様化、図書館運営の合理化に向け関連機関との連携、より利用価値の高い資料の収集・提供・保存に努めること。また洋雑誌高騰、所蔵スペースの狭隘化等への対策としても電子ジャーナル購読の拡充を進める必要があります。(Y)